



☆甦る  
マーラン船

# うるま レポート

☆うるま市で  
見る  
聞く  
遊ぶ

☆うるま市の  
歴史

☆盛岡市と  
友好都市提携

# 甦るマーラン船

戦前、沖縄の海上輸送の主役として活躍したマーラン船。帆に風をはらんで走る懐かしい姿が、長い歴史の中で培われて受け継がれてきた伝統の造船技術を基に半世紀ぶりにうるま市の海に甦りました。



マーラン船

## Reviving Maran Trading Ships

Maran trading ships had a key role in Okinawa's maritime transport before the war. After a half-century absence, the nostalgic image of the Maran trading ship sailing across the sea with its sails full of wind is revived in the sea around Uruma City by using shipbuilding techniques developed and handed down over many years.

2014年7月、帆で風を受けて走る沖縄の伝統的木造船「マーラン船」が、戦後初めてうるま市で復元されました。うるま市与那城平安座の「越来造船」の越来治喜さんと長男の勇喜さんら3人の弟子が、代々継がれている図面を基に、約1年かけて完成させたもので、半世紀ぶりにうるま市の海にマーラン船が姿を現しました。

マーランは中国語で「船」という意味があり、平安座島で定着した呼び名です。沖縄県内では通称「山原船(やんばるせん)」とも呼ばれています。

平安座島は琉球王国時代から交易の拠点として栄えていました。マーラン船は中国から造船技術が伝わり、沖縄で改良された沖縄特有の船で、やんばると与那原間をまきを運んだり、那覇間で生活物資を輸送したり、奄美諸島や喜界島にヤギ、馬、牛などを運んだりするのに使われました。大正時代には100隻以上の船と同数の船頭がいた



といわれています。戦後、輸送方法が海上から陸上交通に転換し、1965年を最後にマーラン船も途絶えました。

越来治喜さんは越来造船の3代目で、市の無形民俗文化財に指定されている唯一の船大工です。復元は、うるま市がマーラン船の造船技術を次世代に継承し沖縄の歴史文化を伝えることを目的に「マーラン等復元活用事業」の一環として2012度からはじまりました。材料のオビスギは越来さんが宮崎県へ出向いて調達したもので、全長約12

メートルの船の外板は1本の木材から切り出しました。厚い外板を簡単な道具だけで一気に曲げる技術は越来造船に代々引き継がれてきた独自の技です。マーラン船は木造船の完成形ともいわれています。その外板が描く美しい曲線には、長年培われてきた伝統の技術の粋が現れています。

復元されたマーラン船は実際に乗ることができます。今後は乗船体験を実施し、小中学校の総合教育などに役立つと見られています。



## Interview /

ごえく なおき  
越来 治喜さん

(越来造船代表・うるま市指定無形文化財)

### 沖縄の誇るべき 造船技術

先代(父)から言われたのは「木をよく見なさい」ということでした。家づくりと船づくりの違いは、家づくりはまず決められたサイズに従って材料を加工しますが、船づくりの場合は材料にあわせて寸法がきまります。木造船は後から継ぎ足しができないので、すでにある木材から過不足なく切り分けなければなりません。

どうやって曲げるのかとよく聞かれますが、同じ一本の木からとった木材でも、部材によって力の入れ方、曲げ方が



変わってくるので、説明するのは難しい。寸法や形は図面に残せますが、木を曲げる技術、船をつくる技術は言葉で表現できるものではありません。実際にやって経験を積み、自分の体で覚えるしかないので。しかし、その技術には物理学、力学にもつながる合理的で機能的な知恵が集約されています。

復元したマーラン船を通して、沖縄の造船技術の素晴らしさを伝えていきたいですね。

# うるま レポート

## うるま市で 見る・聞く・遊ぶ

### うるま市で生まれた 芸術・文化・自然



#### 海の文化資料館

Cultural Sea Museum

勝連半島の与那城屋慶名と平安座島を結ぶ海中道路の間に位置しているうるま市立海の文化資料館にはその名の通り、海の文化がたくさん集められています。ここでは、海の文化を紹介した「小さな博物館」です。

うるま市与那城屋平4番地 海の駅あやはし館2階  
TEL 098-978-8831

#### うるま市立石川歴史民俗資料館

Uruma City Ishikawa Museum of History

うるま市石川は沖縄戦当時、最も早く米軍の収容所が設置され、戦後の沖縄の政治・経済・教育・文化・生活の出発点となった地域です。そのような終戦直後の石川市(現うるま市石川)に関する小学校、米軍服、HBTの更生衣料、2×4の材木で造った規格住宅、カンカラ三線など貴重な資料を中心に展示しています。



うるま市石川曙二丁目1番55号  
TEL 098-965-3866



## うるま市民芸術劇場

Uruma City Folk Art Theater

うるま市民芸術劇場は、旧具志川市時代に市制25周年記念事業として建設されました。本格的な音楽ホールとして活用される響ホール、観客と舞台の一体感が得られる燈(あかし)ホールの2つの専門ホールとリハーサル室を備え、多くの人たちに夢と感動を与える地域文化創造型の芸術ホールとして、文化的なまちづくりに貢献しています。

うるま市字仲嶺175番地  
TEL 098-973-4400

## 野鳥の森自然公園

Wild Bird Park

天願川河口の自然豊かな丘の上にある公園。水辺を中心に野鳥10種類余りの野鳥を観察することができます。展望台からはうるま市内のほか、勝連半島、平安座島、宮城島、伊計島などを望めます。



うるま市字宇堅



## ビオスの丘

Bios-no-Oka

約10万坪の敷地に亜熱帯の森が広がる自然植物園。広大な園内には、多種多様な植物、亜熱帯ならではのカラフルなチョウや小動物が生息しています。蘭の花をテーマにした植物園、湖水鑑賞舟でまわるジャングルクルーズが人気です。

うるま市石川嘉手苺961番地30  
TEL.098-965-3400

## 沖縄県立石川青少年の家

Okinawa Prefecture Ishikawa Youth Center

昭和50年、石川岳の麓に開設された自然体験・宿泊研修施設。キャンプ、登山、ナイトウォークラリーや星座観察など、さまざまな自然体験ができます。石川岳の登山道の起点にもなっています。



うるま市石川3491番地2  
TEL 098-964-3263

# うるま レポート

## うるま市で 見る・聞く・遊ぶ

うるま市の  
海と自然に  
抱かれ、遊ぶ



### 石川ビーチ

Ishikawa Beach

石川公園内にあるビーチで、かつては米軍専用のプライベートビーチでした。復帰後は市民の憩いの場として親しまれています。

うるま市石川石崎

### 宇堅ビーチ

Uken Beach

白い砂浜が美しいビーチ。夏になると市内は勿論、市外からの行楽客が訪れ、マリンスポーツなどで賑わいます。サンサンと輝く太陽の下で戯れたり、潮風を浴びながらバーベキューで一日中のんびりと過ごしたりできます。

うるま市字宇堅644番地3  
TEL 098-974-7772



### 伊計ビーチ

Ikei Beach

干満を気にせずに泳げるビーチ。透明度抜群の海で海水浴はもちろんバナナボートやジェットスキーなども楽しめます。

うるま市与那城伊計405番地  
TEL 098-977-8464



## トゥマイ浜

### Tumai Beach

津堅ビーチとも呼ばれる津堅島の西側にあるビーチ。白い砂浜が約1kmにわたって続いています。ビーチに隣接して民宿やキャンプ場が整備されており、夏場には多くの海水浴客で賑わっています。

うるま市勝連津堅2629番地1



## トンナハビーチ

### Tonnaha Beach

宮城島にある自然のビーチ。さとうぎび畑を抜けたところに海が広がっています。パーラー、トイレ、シャワーを完備しており、シュノーケリング、ダイビング、バナナボートなどのマリンスポーツが楽しめます。

うるま市与那城上原8203番地  
TEL 098-977-8321

## 大泊ビーチ

### Odomari Beach

伊計島の西側にある天然のビーチ。サラサラの白い砂浜が600mほど続き、透明度も抜群。内海にあるため風や潮流の影響を受けにくく、夏場は海水浴やシュノーケリングが楽しめます。パーラー、トイレ、シャワーも完備。

うるま市与那城伊計1012番地  
TEL 098-977-8027



## ふるさと海岸

### Hama Furusato Seacoast

「ふるさと海岸整備モデル事業」によって整備された浜比嘉島にある人工ビーチ。沖合に防波堤があるため、多少風が強い日でも波はおだやか。

うるま市勝連浜

## 海中道路

### Kaichu-doro Causeway

勝連半島から平安座島を結ぶ全長4.7kmの道路。浜比嘉島、平安座島、宮城島、伊計島へアクセスしています。両サイドには海が広がり、解放感あふれるドライブコースとして人気があります。ウィンドサーフィン・海水浴・カイトボードなどのマリンスポーツが盛んです。

うるま市与那城屋平



うるま市の

れきし

# 歴史

## 人と歴史が奏でる自然豊かな やすらぎと健康のまち

City of Bountiful Nature, Serenity and Health Where Man and History are in Harmony

うるま市は2005年4月1日、具志川市、石川市、勝連町、与那城町の2市2町が合併して誕生した新しいまちで、人口は約12万2千人、面積は86.08平方km。「珊瑚の島」という意味の沖縄の言葉「うるま」から名付けられたうるま市は、コバルトブルーの海に囲まれた島々と美しい橋「あやはし」で結ばれる、「海」・「橋」・「空」が調和した風光明媚なまちとして知られています。そして東洋一の長さを誇る「海中道路」や、世界遺産「勝連城跡」をはじめとする歴史的な遺跡も数多く点在しています。伝統芸能「エイサー」や「獅子舞」等が盛んであり、県随一の「闘牛どころ」としても知られています。

Uruma City is a new municipality formed through the merger of two cities, Gushikawa City and Ishikawa City, and two towns, Katsuren Town and Yonashiro Town. It is the city that has a population of approximately 122,000 people and a land area of 86.08km<sup>2</sup>. Uruma City, which takes its name from the Okinawan word "uruma" meaning "coral island," is known as a city of scenic beauty in harmony with the sky, the ocean and the bridge where the beautiful Ayahashi Bridge joins islands surrounded by cobalt blue sea. Uruma City is dotted with numerous historical sites, including the Kaichu-doro Causeway, which extends the farthest of any in the Orient, and World Heritage Site Katsuren-Jo Site. Traditional performing arts, such as eisa and Lion Dance, are very popular here, and the city is well known for having the best bullfights in Okinawa.



## うるま市のあゆみ

2005年  
(平成17年)

- 4月 ●うるま市誕生
- 7月 ●第1回うるま市みほまつり
- 10月 ●第1回うるま市陸上大会
- 11月 ●田場小学校人文字に挑戦
- 11月 ●県民大会総合優勝
- 12月 ●第1回うるま市駅伝大会



〔うるま市誕生〕

2006年  
(平成18年)

- 2月 ●第1回うるま市生涯学習フェスティバル
- 5月 ●世界遺産勝連城跡休憩所オープン
- 6月 ●不法投棄、300人の地域住民・市職員が清掃
- 8月 ●第1回うるま市エイサー祭り開催
- 8月 ●公共施設県内初のESCO事業を開始
- 10月 ●世界のウチナーンチュ大会うるま市出身者歓迎の夕べ
- 10月 ●第1回うるま市祭り開催



〔第1回うるま市祭り開催〕

2007年  
(平成19年)

- 1月 ●第1回うるま市伝統芸能祭
- 2月 ●文化の発信地ていーだぬやがま家開所式
- 2月 ●あげなフェスタ
- 2月 ●うるま市民憲章決定
- 3月 ●市立きむたか保育所落成式
- 5月 ●石川多目的ドームが完成
- 8月 ●ALL OKINAWA クリーンアップキャンペーン2007
- 12月 ●第1回うるま市若獅子空手交流大会



〔石川多目的ドームが完成〕

2008年  
(平成20年)

- 1月 ●うるま市合併記念式典
- 2月 ●サイエンスフォーラム in うるま & チムドンドン出前科学実験 in 津堅島
- 3月 ●県営かんがい排水事業と勝連地下ダム完成式典
- 3月 ●ぐしかわ看護専門学校校舎落成式
- 4月 ●津堅島ブロードバンド事業開通
- 5月 ●第1回環金武湾ウォーキングフェスタ  
ゆいゆいウォーク開催
- 10月 ●健康福祉センター「うるみん」落成式
- 10月 ●12年に1度の龕屋御願(勝連南風原)
- 11月 ●うるま市子ども議会開催
- 11月 ●石油コンビナート等総合防災訓練



〔うるま市合併記念式典〕



## 2009年 (平成21年)

- 1月 ●「もずく餃子」共同開発における県庁での発表会見
- 2月～3月 ●第1回うるみん健康・福祉まつり
- 4月 ●具志川ドーム落成式
- 5月 ●うるま市IT事業支援センター落成式
- 5月 ●元三役離任式
- 6月 ●沖縄IT津梁パーク開所式
- 6月 ●島袋俊夫市長が所信表明  
副市長に榮野川氏、教育長に謝敷氏が就任
- 10月 ●第1回うるま市ちようちよう祭り



〔具志川ドーム落成式〕

## 2010年 (平成22年)

- 6月 ●うるま市民音頭制定
- 7月 ●市制施行5周年記念式典挙行
- 7月 ●マンゴーの拠点産地に認定
- 7月～8月 ●美ら海沖縄高校総体2010開催  
相撲の団体競技で中部農林高校が準優勝を飾る
- 8月 ●市地域交流センター落成式



〔市制施行5周年記念式典挙行〕

## 2011年 (平成23年)

- 2月 ●第1回かっちゃん南風原まつり
- 2月 ●サウジアラビアからタンカーが入港
- 3月 ●4島7つの小中学校の閉校式
- 4月 ●沖縄アミークスインターナショナル開校
- 5月 ●うるま市観光物産協会開所式
- 7月 ●うるま市消防本部・具志川消防署庁舎落成式典
- 7月 ●うるま市・イオン琉球株式会社「防災活動協力に関する協定書」締結
- 10月 ●うるま市・沖縄工業高等専門学校「連携に関する協定書」締結
- 10月 ●第5回世界のウチナンチュ大会  
世界のうるまんちゅ歓迎会



〔うるま市観光物産協会開所式〕

## 2012年 (平成24年)

- 3月 ●第1回うるま市景観シンポジウム開催
- 4月 ●彩橋小中学校開校
- 7月 ●岩手県盛岡市と「友好都市提携」を結ぶ
- 8月 ●イチハナリアートプロジェクト
- 11月 ●第1回うるま市緑化祭開催
- 12月 ●人口12万人目に到達
- 12月 ●うるま市出身の東浜巨選手  
(福岡ソフトバンクホークス)、  
屋宜照悟選手  
(北海道日本ハムファイターズ)の入団報告

〔岩手県盛岡市と「友好都市提携」を結ぶ〕

### 盛岡市友好都市提携



## 2013年 (平成25年)

- 1月 ●うるま市男女共同参画宣言都市記念式典
- 3月 ●うるま市・(株)サンエー・(株)メイクマン  
「災害時における防災活動協力に関する協定」締結式
- 3月 ●ご当地ヒーロー・伝統神ウルマー誕生
- 5月 ●島袋市長2期目就任
- 4月 ●うるま市電話催告センター設立
- 6月 ●救急隊と医師が連携  
消防派遣型救急ワークステーション運用開始
- 10月 ●母子家庭の生活を支援「マザーズスクエアうるはし」開所
- 11月 ●統合庁舎建設工事がスタート
- 12月 ●勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画を策定



〔うるま市庁舎建設安全祈願祭・起工式〕

## 2014年 (平成26年)

- 3月 ●ご当地グルメ「うるまもずくちゃんぶる一丼」誕生
- 4月 ●彩橋幼稚園が開園
- 6月 ●前原高校サッカー部、沖縄県高等学校総合体育大会  
で優勝36年ぶりに頂点へ
- 7月 ●半世紀ぶりに「マーラン船」復元される
- 11月 ●沖縄市・うるま市 災害時における相互応援に関する  
協定書調印
- 11月 ●与那城出身バンドHYによる「HY SKY FES」開催
- 11月 ●「現代の名工」に池宮城善郎さんが選出
- 12月 ●きむたか子どもセンター落成式



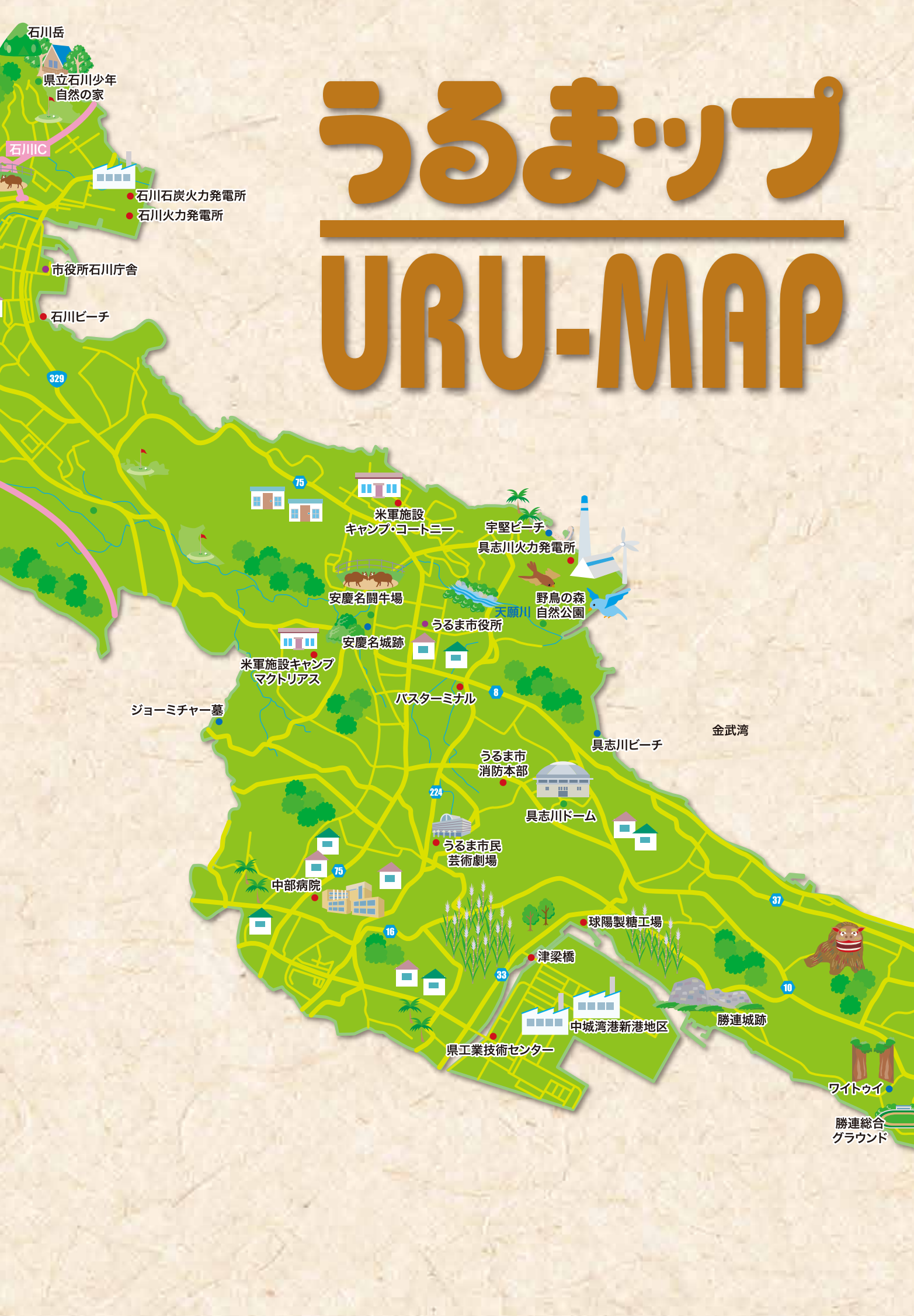
〔マーラン船進水式〕



サンゴ礁に囲まれた美しいまち、  
それが「うるま市」。

沖縄本島の中部に位置し、  
緑あふれる町並みと  
8つの島々からなる  
とても魅力的なまちです。

The nature of Uruma City is almost a microcosm of the diverse nature found throughout Okinawa. From Mount Ishikawa covered with natural broad-leaved trees, the Tengan River traversing through almost the middle of Uruma City to flow into Kin Bay, and the “Road through the Sea,” Uruma City also comprises Heshikiya Island, Miyagi Island, Ikei Island, Hamahiga Island, as well as Ukibaru Island and Tsuken Island on the Pacific Ocean.



# うるまマップ

## URU-MAP

石川岳

県立石川少年  
自然の家

石川IC

- 石川石炭火力発電所
- 石川火力発電所

● 市役所石川庁舎

● 石川ビーチ

329

75

米軍施設  
キャンプ・コートニー

宇堅ビーチ

具志川火力発電所

安慶名闘牛場

野鳥の森  
自然公園

うるま市役所

安慶名城跡

米軍施設キャンプ  
マクトリアス

バスターミナル

ジョーミチャー墓

うるま市  
消防本部

具志川ビーチ

金武湾

224

具志川ドーム

うるま市民  
芸術劇場

中部病院

75

16

球陽製糖工場

津梁橋

県工業技術センター

中城湾港新港地区

勝連城跡

ホワイトウイ

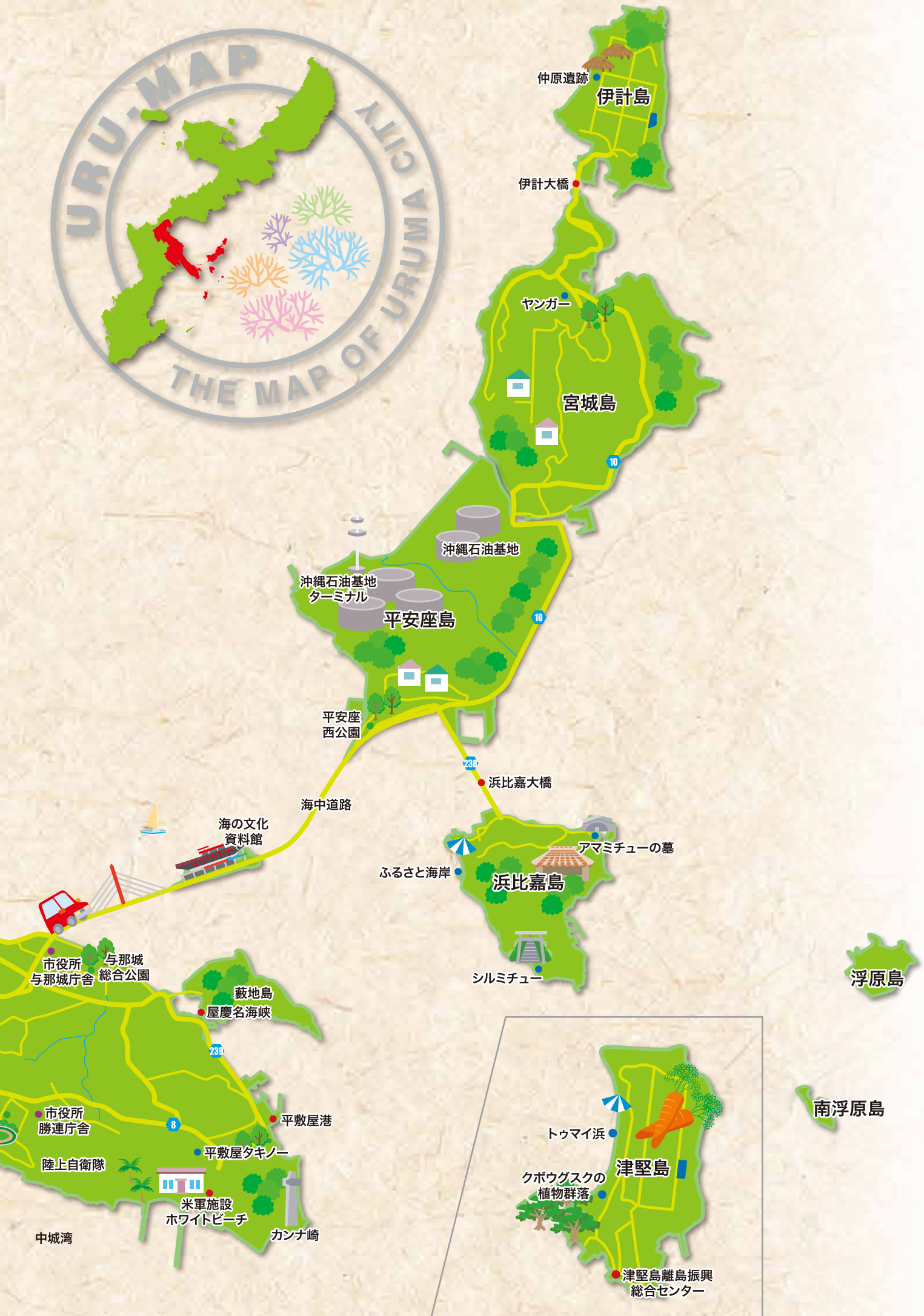
勝連総合  
グラウンド

37

10

33

8



# うるまの島々



## 平安座島

勝連半島と海中道路で結ばれた周囲7kmの島。昔、住民は海に生活の糧を求めて暮らし、戦前までは海上交易の中継地として栄えていました。現在でも、サングウチャーのナンザ拜みやハーリーなど、海に関する年中行事を大事に継承しています。



## 宮城島

平安座島と橋で結ばれている周囲12kmの島。標高121mの高台から平安座島や勝連半島を望むことができます。天然の湧水が多く、昔から作物がよく育つ土地として知られています。



## 伊計島

宮城島と橋で結ばれた周囲7.5kmの島。珊瑚礁からなり、全体が平坦な島。北側にはリゾート施設やサーキット場があり、葉たばこや黄金イモの栽培が盛んです。



## 浜比嘉島

平安座島と浜比嘉大橋で結ばれている周囲7kmの島。琉球神話の祖神であるアマミチュー、シルミチューが祀られており、集落には拝所や御嶽が点在。昔ながらの赤瓦屋根の民家が散在しており、沖縄の原風景が残っています。



## 津堅島

勝連半島の南東約4kmに浮かぶ周囲7kmの島。島の中央から北はほとんどニンジン畑で、別名キャロットアイランドと呼ばれています。うるま市の名産品である津堅にんじんは甘くて県外でも人気があります。



## 浮原島・南浮原島

勝連半島の東約7kmに浮かぶ無人島。戦前は浜比嘉島の漁夫たちが居住していたこともあります。周囲の美しい海ではモズクの養殖が盛んです。



うるま市盛岡市友好都市調印式

## Friendship City

Morioka City



### 岩手県盛岡市と 友好都市を提携

Friendship City Alliance with Morioka City

# 盛岡市

うるま市出身の女優・比嘉愛未さんが盛岡市(岩手県)を舞台にしたNHKドラマ「どんど晴れ」に出演したことをきっかけに、盛岡市とうるま市の交流が始まり、平成24年7月31日には友好都市提携を結びました。

Exchanges between Morioka City and Uruma City began with the appearance of Manami Higa, an actress from Uruma City, in the NHK drama "Dondo Hare," which was set in Morioka City, Iwate Prefecture. A Friendship City Alliance between the two cities was concluded on July 31, 2012.

## 盛岡市はこんな街

岩手県の県庁所在地である盛岡市は、岩手山、姫神山などの山並みと豊かな森に囲まれた自然豊かな街です。市街地には北上川や中津川などの美しい川が流れ、あふれ出る清らかな水に恵まれていることから「杜と水の都」とも呼ばれています。

岩手山の裾野に広がる土地には、旧石器時代から人々が暮らしはじめました。縄文時代にはいくつもの集落が点在し、森や

野原の産物と海からの産物が交わる交易地として賑わうようになりました。

現在では東北新幹線、秋田新幹線、東北縦貫自動車道などが通り、首都圏や東北各地への交通の要衝であり、北東北の拠点として「人々が集まり、人にやさしい、世界に通ずる元気なまち盛岡」をまちづくりの目標として取り組んでいます。さらににぎわいと安らぎのある北東北をリードする拠点として今後の発展が期待されています。



## 盛岡市の祭り、食、工芸

盛岡の夏のメインイベントとして知られている「盛岡さんさ踊り」は、藩政時代から受け継がれている伝統的な踊りで、毎年8月1日～4日の開催期間に240余りの団体が参加します。

旧暦の5月5日に地域の農民が鬼越蒼前神社に馬の無病息災を祈願したのが起源といわれる「チャグチャグ馬コ」は、百頭を超える馬が滝沢市の鬼越蒼前神社から盛岡市の盛岡八幡宮までの約15kmを鈴の音を響かせながら練り歩く伝統行事です。

食文化では「わんこそば」を筆頭に「盛岡冷麺」「じゃじゃ麺」を合わせた盛岡三大麺のほか「南部せんべい」「日本酒」などが有名。「南部鉄器」「紫根染」「南部古代型染め」などの伝統工芸も大切に伝えられています。



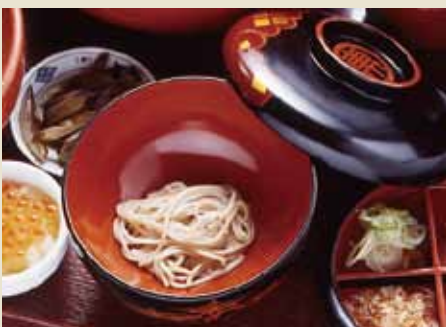
地酒



南部しぼり紫根染・茜染



盛岡さんさ踊り



わんこそば



南部鉄器



チャグチャグ馬コ



平成17年4月1日、具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併して「うるま市」が誕生しました。うるま市という名前は、合併の前に全国から募集した5,233件、2,457種類の中から名称検討委員会で12種類まで選考し、最終的に合併協議会で決定されたものです。

「うるま」とは、サンゴの島という意味です。最終候補には「暁市」「若夏市」などもありましたが、海に面した景観を表していることと、ひらがなの親しみやすさが評価され、新しい市の名前に選ばれました。

うるま市は俗に「ウルマ石」とも呼ばれるトラバーチンの産地としても知られています。昭和4年、工学博士の武田吾一氏が国会議事堂の建築資材の調査で沖縄を訪れた際、平敷屋(旧勝連町)のトラバーチンを調べ、資材としての

優秀さを見出しました。その結果、平敷屋のトラバーチンが議事堂の表玄関に使用されることになったのです。ウルマ石の名称はこの時に武田氏によって命名されたものです。

ところで「うるま」という言葉については、日本で平安時代にことばの通じないところ、という意味で使われていたようで、琉球の別称とされるようになったのが室町時代以降といわれています。とはいえ、沖縄にもともと「うるま」という言葉がなかったわけではなく、琉球王府

の古語辞典ともいふべき『混効験こんこうけん集しゅう』には、日本の和歌の辞書である『呉竹集ごちくしゅう』から引用して、「うるま」は「琉球」のことだと明記してあります。

「うるま」という言葉については、さまざまな歴史の変遷はありますが、合併から10年を経て、「うるま市」の名称は確実に定着しています。

## 「うるま」 雑考